

2019年2月17日

「はじめてのキリスト教」説教要約

忍耐の意味

(ヤコブ5:7-11)

一、神が世界を造られた

まことの神を知り、信じるようになりますと、世界観と人生観が一変します。なぜなら、この世界は神がお造りになったもので、神は休むことなく働き続けておられると知るからです。では、この世界をお造りになったのが神であると、どうして分かるのでしょうか。私たちが、「神がお造りになった」と「信じる」からでしょうか。もしそうであるなら、人が神をつくったことになりません。私共が頭の中で神を想像してつくったことになりません。神は、私共には分かりませんが、知ることもできないお方です。そこで、神さまの側から教えてくださいました。それが聖書です。その聖書に、〈創世記1・1初めに、神が天と地を創造した。〉とあります。人間が神を思い描いて、神をつくったのではなく、神が世界を造られました。

二、神は働き続けておられる

神さまは少しも休まれないお方です。私たちは休養を取らないと心身共に疲れてしまいます。睡眠を十分に取らないと、体ばかりか、心も壊れてしまいます。ですが、神さまは休養なさいません。

どうしてそのようなことが分かるのでしょうか。聖書に書いてあるからです。主イエスが語られた言葉です。〈ヨハネ5・17b「わたしの父は今に至るまで働いておられます。ですからわたしも働いておられるのです。」〉と。神は働き続けておられます。これは、とてもたいせつなことです。なぜなら、まことの神を知り、神にお従いするならば、自分(たち)が無意味に時間を過ごしているという思いから解放されるからです。そして、祈って神の時を待つようになります。これが、主を待ち望む者の姿です。

ヤコブの手紙5章7節、8節を見てまいりましょう。〈こういうわけですから、兄弟たち。主が来られる時まで耐え忍びなさい。見なさい。農夫は、大地の貴重な実りを、秋の雨や春の雨が降るまで、耐え忍んで待っています。あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主の来られるのが近いからです。〉とあります。ヤコブの手紙が書かれたとき、教会には耐え忍ばなければならぬ状況があったのでありましょう。教会を攻撃する様々な闘いがあったのでありましょう(1・2)。あるいは、教会生活においてつぶやきたくなるような問題があったのでありましょう(5・9)。ですが、「主はまどろむこともせず、働いておられる」と知るならば、忍耐することができず。言い換えるならば、主を待ち望むことができます。そのことが、10

節で語られています。〈苦難と忍耐については、兄弟たち、主の御名によって語った預言者たちを模範にしなさい。〉と。

三、「ヨブの忍耐」をめぐって

最後に、少し聖書研究的な内容になります。11節を読んで一緒に考えたいと思います。〈見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いであると、私たちは考えます。あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いています。また、主が彼になさったことの結末を見たのです。主は慈愛に富み、あわれみに満ちておられる方だということですから。〉とあります。ヤコブは、忍耐を語るにあたり、ヨブを引き合いに出しています。では、ヨブは忍耐をしたから、すなわち神を信頼し続けたから、結果として祝福に与ったのでしょうか。私は、ヨブ記をどのように読んでいません。ヨブ記が語るのは、ヨブは神の前に何の落ち度もなかったものの、ヨブが試練に遭うことを主が許されることにより、たいへんな苦しみを味わったことです。ヨブを教え諭そうと、エリファズ、ビルダデ、ツォファルという三人の友が語りますが、結果としての外れでした。その後、エリフというイスラエルの預言者を代表する人物が諭そうとしますが、エリフの言葉も的外れとなり、最後に主ご自身が語られ、ヨブが主を信じるとは何かを知ったという結末です。これは私共を力づけます。私

共は「神にはえこひいきはない」(ローマ2・11)と信じるものの、現実には様々な理不尽を体験します。ですが、自分の考えではなく、神を信頼することの意味があると知るがゆえに、ヨブ記が多くの方に支持されていると思われまます。

それはそれとしまして、きょう開いた聖書箇所より「ヨブは忍耐することによって、祝福に与ったのだ」という読み方があったのだと知ります。実は、ヨブ記を題材にした文書があったことが分かっています。邦訳名は『ヨブの遺訓』、すなわち「ヨブが残した教え」という名前の文書です。これは、旧約偽典と呼ばれる文書の中にあります。「偽典」という言葉を見ますと「偽の書物」に見えてしましますが、そうではありません。旧約聖書に載っている人物や話の内容を題材にして、つくられた書物です。『ヨブの遺訓』は、ヨブが悪魔と闘い続け、忍耐の末に神の祝福を勝ち取ったという内容です。ヤコブが「ヨブの忍耐」と語ったときに、こちらの文書の内容も考えていた可能性が大きいです。

結びに一言。きょうは「忍耐の意味」と題して語りましたが、それにふれる必要があると思います。忍耐の意味、それは神さまが世界を造られて以来、休むことなく働き続けておられます。それを信じることです。